

# スモン調査研究協議会研究報告書

No.12

昭和 46 年度 総括報告

昭和 47 年 3 月

スモン調査研究協議会

## 序

昭和 47 年 3 月 13 日に行われたスモン調査研究協議会は 44 年来の研究成果を踏まえて、“疫学的事実ならびに実験的根拠からスモンと診断された患者の大多数はキノホルム剤の服用によつて、神経障害を起こしたものと判断される”という研究総括を発表し、これが内外に計り知れない影響を及ぼしたのは人も知るところである。

この研究の成果は疫学、病理、微生物、キノホルム、治療予後、保健社会学の 6 部会の各実験担当責任者によつて極めて要了よく照会され、サマライズされているのであるが、総会当日出席者に配布されたオフセット印刷の記録としてしか残されていなかつた。

これは当然スモン調査研究協議会研究報告書の一環として刊行されるべきものであると考えられるので、実際にはやや時期が遅れた憾はあるが、ここにそのような形として出版する運びになつたものである。

甲 野 礼 作

## 目 次

序	甲野礼作	
1. 疫学部会報告	重松逸造	1
2. 保健社会学部会報告	宮坂忠夫	3
3. 微生物部会報告		
a. ウイルス	多ヶ谷 勇	7
b. 細菌およびマイコプラズマ	中谷 林太郎	11
4. キノホルム部会報告		
a. 動物実験	大月三郎	16
b. 標識キノホルムの代謝と分布	豊倉康夫	23
c. 体内キノホルムの分析と生化学	田村善蔵	29
d. まとめ	江頭靖之	32
5. 病理部会報告		
a. 神経病理	白木博次	34
b. 全国剖検例の調査成績と病理組織学的 診断基準	江頭靖之	41
6. 治療予後部会報告		
a. 予後	祖父江逸郎	43
b. リハビリテーションの現況	杉山 尚	43
c. 臨床班員が観察中のスモン症例概数調査	楠井賢造	43
d. 昭和45年1月1日以降におけるスモン患者 の発生状況調査成績	楠井賢造	44
e. スモンの治療指針	楠井賢造	44
7. 総括報告	甲野礼作	45